

# 「令和を迎える多様性社会へ」

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社

代表取締役 CEO

落合 陽一 氏

## AI やロボットの力が

### 高齢社会・人口減少を支えていく

私は機械学習や統計処理の力、もしくはロボットの力を使って、高齢社会をどうやって支えていくかという国プロジェクトの研究代表をしています。例えば、車椅子を自動運転するにはどうしたらいいか、複数の車椅子を連結して動作させるにはどうしたらいいか、研究をしています。

介護施設で車椅子を操作している方の時間は、勤務時間の15%程度という試算が出ました。このまま人口減少が進むと、その時間を捻出できなくなります。1人で車椅子を同時に何台も動かすことや、後ろからではなく、横で会話しながら動かせるようになれば、よりコミュニケーションが取れ、サービス性を向上することができます。

どこまで自動化して、どこまで人を減らして省人化できるか、また、どこまでカスタマイズできるかを介護施設の方々と一緒に取り組んでいます。

もう一つの取り組みとして、普段メディアアーティストとして活動しています。以前、廃校にアートを置いたことがあります。茨城県の県北地域には、廃校になりたての学校が多数あり、まだおどろおどろしくない廃校に作品を展示する機会がありました。このインスタレーションを組んで、これはこれで、独特の美的感覚があると思いました。

日本は人口減少で、インフラが撤退し、人工物のみ残る、という現象が起きています。例えば誰もいな

い教室で、アームが勝手に動きながら、ひたすら蝶々を映し続けるという、どこか宮崎駿的日本サブカルマで含んだ文化的風景が、ここにしかないものを見せる空間となるなど、何か他に使える手があると思いました。

そして、日本には「金継ぎ」の文化があります。これからは金継ぎの文化のように、ソフトウェアで物事を修復する社会になっていくのではないのでしょうか。

また、この人口減少の中で、どうやったらロボットが人を支えられるのか、その答えは、おそらくパラダイムの変換だと考えています。

## 他国の先行事例が

### 日本の課題解決のヒントに

私は、日本の課題を解決するために役立つ先行事例が、世の中にはたくさんあると思っています。その一つには、日本より人口が少ない国、ヨーロッパ各国の取り組みを観察してみることです。

例えば、諸外国では認知症の患者さんが増えたときに、社会参加や社会貢献をするためにタブレットを配りました。iPadはAppleのブランド付きだから高価ですが、Androidの中国製タブレットは、安い価値で手に入るかもしれません。

簡単に言うと、そのタブレットに「新潟県」という壁紙を付けて配ってしまえばいいのです。これからは、誰とどうやってつながるかを、認知症の方々が社会交流するために、ICTの外側を使って、ハードウェアにコストをかけず、5Gを利用して無線でつながるような時代へと変わっていくと思います。

また、オランダの夜間介護体制では、40~50のベッドに対し1人の割合で介護士が看ていますが、日本では15のベッドに対して1人程度で看ているのが現状です。つまり、オランダは日本の約3倍の労働生産性効果があり、それをオランダはICTで担保していて、同

じような政策がおそらく日本の国内でも使えるようになってくると考えています。

## コストをかけずに新しい価値を生み出す

### 「デジタル発酵」で勝負する時代

私が、デジタルを使って美的感覚や文化を醸成していくために、重要だと感じているのは「デジタル発酵」という考え方です。発酵は、今まであった資源を変換するという意味合いがあり、現代はどこにいてもデジタルにつながるすることができます。インターネット上で評判を呼んだ場所には、人が集まるというように、デジタルを使えば、ほぼゼロ円で今あるものの価値を発酵のように高めていけるかが勝負だと思っています。

また、高齢社会や人口減少を解決する糸口は、非常に強い輸出価値またはブランドにつながっていくと思います。

しかしながら、我々の成熟社会のことを考えると、ここで新しく生まれるイノベーションの価値とは、「デジタル発酵」なのか菌類なのか、そういうソフトウェア的、もしくは成熟の中でより深めて醸成された価値のことなのです。

元号も変わりますし、今は契機ですから、2020年から2025年にかけて、ハードからソフトへの構造自体の変革に向けて、政策や民間、産業、産学連携の中でも、トライ・アンド・エラーができるような社会を望んでいます。

## 高齢社会はソフトが支える多様化社会

### イノベーションには若者に試行錯誤の場を

数を打った者がイノベーションを起こす確率はかな

り高く、若者は元気ですから、若者になるべくトライ・アンド・エラーができる環境を与えることが必要です。

1980年代はハードウェアでやれていたから元気だったわけですが、今日の私達は、それをソフトウェアでやるしかないので。そのコストを負担しきれない私達にとって、そんな多様性社会を迎えられればと願っています。

最後に、コンピューターのコードやソフトウェアは、全部が「命令」であります。令和の「令」は「good」のようなポジティブな意味だと思いますが、これを「コード」と読み替えれば、令和はきっとソフトウェア社会に変わる一つの契機になると思っています。

ありがとうございました。